

二〇二三年度 入学試験問題

国 語

第一回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから八ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

【1次の「文章Ⅰ」「文章Ⅱ」は、どちらも重田園江『ホモ・エコノミクスⅠ—「利己的人間」の思想史』の一節です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

ホモ・エコノミクスは「合理的経済人」とも呼ばれ、広い意味では「自分の経済的・金銭的な利益や利得を第一に考えて行動する人」を意味している。もつと厳密な意味で使われる場合には、ここに完全に合理的で計算を間違えないとか、自分の好みを熟知して周囲に流されないとか、そういう条件がつけ加わる。

自分の利益を第一に考えて行動することは、現在ではごく普通だ。(1) スーパーで買い物するときに思い浮かべよう。値段が高めのものと安めのもの間でどちらを買うか判断するとき、私たちは品質や美味しさ、新鮮さ、量など、いくつかの「シビヨウ」をもとに決定を下す。「はじめてのおつかい」の場合を除いて、買いに行く品物は一つではない。予算はだいたい決まっています、私たちはそのなかで一番いい配分でいろいろなものを適量ずつお得に買おうとする。このとき人は、概ねホモ・エコノミクスとして行動している。

お得を目指すこうした行動様式は、経済行動としてはごく一般的なものだ。だがそれは、近代以前にはそれほど目立った人間像ではなかった。そもそも市場に依存した生活様式をとっていない場所では、取引における最適行動が日常的に必要なことになることはない。いつもお得を考えて計算している人は、必ずしもありふれてはいないのだ。

今度は少し別の観点から、ホモ・エコノミクスの「近代性」について見てみよう。いまの社会では、金持ちはずいぶん一段高いところに位置している。金持ちは尊敬されたり、そうなりたいと思われたりする。ところがこれもまた、近代以前には一般的な価値観ではなかった。現代でも、金持ちであることは、両義的な感情を呼び起こす。庶民から金を巻き上げてうまくい商売をやっているんだらうとか、投資で儲けるなんてただの運じゃやないとか、金持ちは嫉妬とやっかみの対象になりうる。A、社会道徳として金持ちであることが「ヒナン」されたり、金儲けそのものが悪い行いであるとして、貶められたり禁止されているわけではない。

ホモ・エコノミクスとは、言い方を変えると、行動のいちいちに経済的な無駄を省き、できるだけ儲かるように合理的計算に基づいて意思決定する主体である。これは自己利益の主体とも呼ばれるが、ここで金儲けは肯定的に捉えられている。肯定的というか、人間が生きていく上で当然の行為様式とされているということだ。そしてそれに成功した人は尊敬に値する。ホモ・エコノミクスの社会では皆が金持ちを目指し、その企てが成功すると多くの人に評価され羨ましがられるのだ。

いまでは当たり前に思われるこの価値観は、実はそれほど古いものではない。B それほかなりの抵抗に遭い、すんなりとは受け入れられなかった。ヨーロッパにおける一七—一八世紀というのは、商業の拡大による新大陸をはじめとする世界各地の珍しい外国製品の登場、また生活必需品の商取引による市場化（主に穀物の「コウイキ市場化」）が起こりはじめた時代であった。

他方でこの時代に至るまで、ヨーロッパのモラルはキリスト教道徳に従ってきた。そしてこの道徳は、金儲け、とりわけ利子を取ることによって金を蓄積し、それを再投資して資本を殖やしていくような生の様式を非常に嫌っていた。ここでは、自己利益を目指して行為するのは、人としてよくない生き方、貪欲に「ジユウヅクする生」ということになる。逆に言うと、厳然たる支配を保っていたキリスト教的価値観の中で、金儲けへの道徳的な抵抗感がなくならなければ、資本主義の利潤獲得が世界を席巻する現代に至る道は開けなかつたのだ。

注目すべきことに、ホモ・エコノミクスが受け入れられていく「カテゴリー」は、単なる「金儲けの勝利」ではなかった。C そこには積極的な新しい道徳があると主張されたのである。金儲けが道徳というのは変な感じがするが、そこに商業に携わる人たちの新しい生活様式、そして新しい文化が見出された。では、いまでは忘れ去られたこうした歴史をたどることで、何が覚えてくるだろうか。

二〇世紀は、もはや金儲けと道徳の関係を真剣に問うことがなくなった時代だった。科学技術やイノベーションと結びついた経済成長は生活の豊かさをもたらし、豊かさは平等と自由を生む。これは戦後の日本ではわりと真面目に信じられていた価値観だらう。悪いのは戦争やそれを生んだ国家の競争的野心であって、平和な経済成長はすべての人を満足させるはず

だ。経済的豊かさがあらゆる問題を解決するという考えは、社会主義国を含む多くの国々で第二次大戦後には共有されていた。

だがそこで先送りにされていた問題が一気に噴出する。それが二一世紀だ。成長は資源の食いつぶしであり、世界は増えすぎた人口を止めることができないういである。ところがその人たちを養うに十分な食料を生産する土地や資源は、世界に残されていない。自然との共存どころか、人間以外の生物や環境は、多くなりすぎた人間たちの生存様式のせいで悲惨な目に遭っている。

富を得ることは人間の生き方、価値観、そして生活スタイルにどのような影響を与えるのか。それは何を崩し、見失わせるのか。それははたして道徳的に許される生き方なのか。資本主義、黎明期にあたる一六一一八世紀にこうした問題をめぐって交わされた論争は、いまの時代に再発見されるべき問いかけを含んでいる。D 二〇世紀が置き去りにし、無視してきたものはなんだったのかを、それ以前の時代に人々が何に躊躇したのかを明らかにすることで、示してくれる。

私たちはいま、人間が追い求めてきた富と豊かさ、そしてそれを追求する自己利益の主体「ホモ・エコノミクス」が、根本的に誤った価値観と結びついていないのかと問いかけねばならないほど追いつめられている。二一世紀に人はホモ・エコノミクスであってはならないのではないか。この意味で「一八世紀の富と徳の問い」は、二一世紀に再来していると言える。

★両義的……………一つの言葉に二つの意味合いがあるさま。

★貶められ……………人から見下される、という意味。

★席卷……………ものすごい勢いで勢力範囲を広げること。

★黎明期……………新しい時代が始まろうとする時期。

【文章Ⅱ】

★スミスは『道徳感情論』（初版一七五九年）第一部第3篇第2章と、第六版（一七九〇年）で追加された第3章で、世間一般に富と権力を崇める強い趨勢があることについて、道徳的観点から検討している。スミスの観察によるなら、どんなに貧しい労働者であっても、虚栄や贅沢のために賃金の大半を使おうとする。富と権力を得るために人はあくなき競争の中に身

を投じるし、社会的地位向上のために必死になる。スミスはなぜ人がこんなにも真剣に、財産や栄華を求めて我を忘れるのかと問う。

スミスは、人は貧乏人より金持ち、苦しんでいる人より幸福な人が好きだという。金持ちや権力者は見ているだけで快をもたらしてくれる存在だからだ。巨万の富を持つ人は自然に注目を集め、好意をもって扱われ、ちやほやされる。他方で貧乏人は人から同情も共感もされないため、自らの状態を恥じる。こうして貧乏な人の存在は世の中から無視され、置き去りにされる。これは現代にも大いに当てはまることだ。コロナ禍で女性と若者の自殺が増えているといわれても、その人たちにスポットライトが当たることはない。貧困者は自らを恥じて隠れており、不幸が嫌いで関わりたくない人たちは知らず知らず目を背ける。スミスはこうした人間の冷酷さを仔細に描写している。

金持ちの方が貧乏人よりいい感じがするからみんなが寄り集まってくるというごくありふれた現象は、しかしスミスから見ると深刻な道徳的影響を与える。そのことによって人々は、金持ちや権力者におべっかを使い、彼らの言いなりになって褒めそやす。スミスは、ルイ一六世を例に挙げ、この国王が見た目の荘厳さで人を惹きつけるものの、そこには大した内実は伴っていないと辛辣な指摘をしている。才能や徳の面ではとりたてて見る所のないこの王がこんなにも尊敬されたのは、その容貌の優雅さと美しさのためであった。

ここには、もっぱら外面を重視して人に対する態度を決める、当時の価値観が反映している。スミスはそれに疑念を抱き、このような空疎な人物評価が広まると、道徳が頹廃すると警告している。一方で富者と権力者を崇めたてまつり、他方で貧乏者を無視し蔑視するこの傾向は、道徳的価値の重要度を取り違えていることからくる。スミスにとっては、真に敬意を受けるべきは知識と徳を持つ者である。しかしこうした人々はなんとも地味で、派手派手しく着飾り自己宣伝がうまい富者や権力者のようには目立たない。多くの人は見かけにだまされ、富者の権勢を真の徳と勘違いする。そのためこうした見かけ倒しの人物の不道徳は、寛容にも見逃される。

身なりのいい人の放蕩は、みすばらしい人の場合に比べて軽蔑や嫌悪にさらされる度合いがはるかに少ない。貧乏者の場合、節制や礼儀の法にちよつと違反するだけで激しい憤りを生む。だが身なりのいい人

の場合は、つねにしかも公然とこうした法を蔑視していても、一般的に言っているかに怒りの対象になりにくい。(The Theory of Moral Sentiments, p. 63, 『道徳感情論』124ページ)

人々は金持ちや権力者の不道徳をヒナンするどころか、彼らを賛美し、その服装やしぐさをまね、自らもその地位に少しでも近づこうとあくせく競い合う。そして醜い手段を使って一旦地位を手に入れたら、そのカテイで犯された不品行は忘れ去られ、人に羨まれる存在となつて、いばり散らせるといふわけだ。

スミスは、財産の追求と徳の追求とは両立し難いと考えていた。というより、本来両者は別のものなのだ。物質的な富と立派な人間性とを併せ持つことは、財産が社会的な誘惑や自惚れと無縁でありえないために困難なのである。スミスはこうした認識に立つて、少数のまともな人間として徳の道を選ぶことを読者に呼びかけている。★『国富論』で自由貿易と産業による豊かさを奨励したスミスは、道徳論としては富の支配に不信感を抱いていたことになる。

(重田園江『ホモ・エコノミクス―「利己的人間」の思想史』)

★スミス……………アダム・スミス(一七二三―一七九〇)。イギリスの哲学者・経済学者。

★『道徳感情論』……………一七五九年に出版されたアダム・スミス著作の書物。後に出版する『国富論』と内容的に関連している。

★趨勢……………ある方向へと変化してゆく勢い。

★禍……………災い。

★ルイ一六世……………当時のフランス王(一七五四―一七九三)。

★空疎……………外形だけで内容のない様子。

★頹廢……………荒廢し、乱れて不健全になること。

★蔑視……………さげすんだものを見方をする事。

★放蕩……………遊びに耽つて身を持ち崩すこと。

★『国富論』……………一七七六年に出版されたアダム・スミス著作の書物。近代から現代に至る経済学の出発点と位置づけられる社会思想史上の古典。

135

130

125

問一 — (1) 「スーパーで買い物するとき」とありますが、このとき人が一般的にしていることは何ですか。最も簡潔に述べた十字以内の表現を本文から抜き出しなさい。

問二 — (2) 「ホモ・エコノミクスの『近代性』」とありますが、筆者はなぜ「近代性」と強調しているのですか。二行以内で説明しなさい。

問三 — (3) 「いまでは忘れ去られたこうした歴史をたどる」とありますが、これはどういうことですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 商業の拡大によって発見された外国製品や商取引による市場化が

イ 利子により金銭を蓄積し、資本を殖やしていくような生の様式が

ウ 自己利益を目指して金儲けをすることが道徳であるという考えが

エ 金儲けは人としてよくない生き方であるという道徳的な抵抗感が

いかにしてなくなつたのかを歴史的にたどること。

問四 — (4) 「根本的に誤つた価値観と結びついているのではないか」とありますが、そのように言えるのはなぜですか。三行以内で説明しなさい。

問五 — (5) 「一八世紀の富と徳の問い」とありますが、これについては【文章Ⅱ】で詳しく述べられています。【文章Ⅱ】では、筆者はアダム・スミスの考えを紹介していますが、それによれば、アダム・スミスはどのようなことを考えていますか。【文章Ⅱ】の内容に即して、三行以内で説明しなさい。

問六 — A ~ D に入れる語としてふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選びなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア むしろ イ しかし ウ そして エ しかも

問七 — (ア) (オ) のカタカナを漢字に直しなさい。

問八

【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の全体を通じて、その内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「合理的経済人」という意味のホモ・エコノミクスは、古くはヨーロッパのキリスト教道徳に基づく考え方から生まれたものであり、一八世紀に盛んに議論されていた。

イ 金持ちが尊敬され、貧乏人は嫌われるという、一八世紀のヨーロッパでは一般的だった考えは、アダム・スミスの業績により、二〇世紀には真剣しんけんに問われることはなくなった。

ウ 現代の深刻化する環境問題かんきょうの解決にあたっては、もはや富と徳のあり方を根本から見直すことが不可欠であるが、その際にアダム・スミスの著作からヒントを得ることができる。

エ 富や権力のある人間と、知識や徳を持つ人間とは、道徳的な価値観から見ると同じ性格のものであるので、私たちは今、まさに両者を併せ持つことが求められている。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

野乃がいたら、どんなわたしだっただろう。

わたしはよく考える。想像をする。「野乃という双子の妹と一緒に暮らしている」、そんなわたしのことを。

実際、野乃はいるのだ。

見えないけれど、わたしたちの心の中にちゃんと。

★奈菜ちゃんは食卓しょくたくにきちんと野乃の席を作る。わたしたちと同じようにお茶碗ちやわんも並べる。クリスマスとか、わたしたちの誕生日とか、お祝い事の日には、ケーキやごちそうを野乃の席にもちよつとだけ。

ときどき、野乃の声が聞こえるような気がすることがある。

おねえちゃん、おやつ食べようよ。

おねえちゃん、もう宿題やった？

おねえちゃん、漫画まんが貸して。

おねえちゃん、お風呂ふろ入る。

それに、不思議なんだけど、野乃のにおいがすることがある。

家の中で、学校の廊下ろうかで、駅前通りで、ショッピングセンターで、プールサイドで。ふわって、なんだかちよつと泣きたくなるような、なつかしいみたいなにおい。なんのにおいか、はつきりとはわからないのに、いつかどこかで感じたことのあるにおいだって、わかる。それはきつと、わたしが奈菜ちゃんのおなかの中で感じていた、野乃のにおいなんじゃない……？

そういうとき、わたしは小さな声で呼びかけてみる。

野乃なの？

返事はないけど、わたしにはわかるの。

空気の中に野乃がいるって。

六年生のとき、クラスの女の子たちにこの話をしたら、こういわれた。

「かわいそう」

かわいそうって？ 野乃が？ それともわたしが？ 誰だれのどこがかわいそうなの？

知りたくてしつこく聞き返したら、どうしてかその子は、泣いてしまったのである。そのときの教室の雰囲気ふんいきは、言葉ではいい表せない。

わたし「かわいそうがられる」のってあんまり好きじゃない。その話を

30

25

20

15

10

5

奈菜ちゃん★と正夫くんにしたなら、奈菜ちゃんはちよつと微妙な顔をしたけど、正夫くんはうれしそうにした。そういうのを「⁽¹⁾プライドが傷つく」っていうんだぞって、教えてくれた。寧音は「⁽²⁾誇り高い」んだなって。

だけどもかく、それからというものは、わたしはこの話を誰にもしなくった。この話っていうのは、いろいろな場所で野乃のにおいがするっていう話ね。だつてわかつてもらえないんだもの。

でもしかたない。双子の片割れと、おかあさんのおなかの中でさよならしたことのある子なんて、そんなにたくさんはいないのだから。経験しななくちゃわからない気持ちってたくさんあるでしょ？ だから、経験した人は、経験していい人に、やさしくしてあげなくてはならない。どうしてわかつてくれないの？ じゃなく、わからないならしょうがないよねって、ちよつとだけあきらめればいい。それがわたしが身につけた方法だ。

わかつてもらえなくても、野乃のにおいを感じることは、わたしにとつて大切なこと。

それでいいのだ。

だけど本当は、それってどういうことなの？ って、あきらめずにわたしに聞いてくれる子がいたらいいなって、そう思う。

その日、学校に行くと、同じクラスの比企ひきさんが、教室で泣いていた。

比企さんは、⁽³⁾声こゑがものすごくちっちゃくて、授業中に先生に指されて発言しても、口は動いているのにさっぱりなにも聞こえてこない。井上くんが「聞こえませーん」とからかって、それでみんながちよつと笑って、したら先生がそれを注意して、「もう少し大きな声でね」と励はげます。これ、いつものパターン。

そんな比企さんが、自分の席で **A** 泣いていた。比企さんの席は教室の真ん中にある。その席のまわりにだけ、誰も人がいない。教室の雰囲気は、梅雨つゆ時にふさわしく **B** している。

「どうして泣いているの？」
わたしが近寄っていつて聞いても、比企さんは顔を上げずに泣き続けている。

「寧音ちゃん、こつちこつち」

「おはよー」

教室のすみっこにいる、まりもと糶山らみやまに呼ばれた。わたしはすぐにふた

60

55

50

45

40

35

りのところに行った。

「寧音ちゃん、見て。まりもの新しいノート、かわいくない？」

「今度ふたりも買おうよ。おそろいにしよ」

まりものショッキングピンクのノートはたしかにかわいかった。でも、これはピンクの似合うまりもが持っているからかわいいんであって、わたしにも、たぶん糺山にも似合わないと思う。森まりも、上から読んでも下から読んでも、もりまりもはもりまりもだ。

「ねえ、比企さんってどうしたの？　なんで泣いてるの？」

わたしが聞くと、まりもは「シート」と口に人差し指を当てた。「あとで教えてあげるから」

「今じゃだめなの？」

「だからだめだって」

「なんで？」

「ちよちよちよ、寧音ちゃん空気よもうぜ」

糺山があわててそんなことをいったけど、それは、これ以上まりもの機嫌が悪くならないように気をつけてくれ、という忠告にも聞こえた。だからわたしは黙った。

しかしわたしは混乱する。泣いている子を放っておくのは、空気をよむことだったつけ。放っておいてほしかったら、教室で泣いたりしないと思っただけ。

一時間目の理科の授業中、ふたつ後ろの席のまりもから手紙がまわってきた。

『スウ病が出た』

なるほど、と思った。

『今日の放課後、六班で校外学習の自由行動の計画たてようって、糺山があいつにいったら、スウと約束してるからだめだって。糺山がせっかくなさそってやったのに。バカみたい』

こうしてまりもは、よく比企さんをいじめている。

たしかに比企さんはね、少し変わっている子である。

比企さんには、スウという名前の空想の友だちがいる。本当にその子がリアルにいるみたいになることがある。「スウと一緒に遊んでいた」とか、「巨大パフエをスウと半分こした」とか、「スウの前髪が伸びてきた」とか、そういうことを平気でいったりする。

95

90

85

80

75

70

65

「そんな子、いないし！」

「うそつき！」

「きも！」

「やば！」

みんながわざわざそんなふうにいるのは、どうしてだろう。そう思うなら、比企さんを放つとけばいいのに。

(4) わたしはときどき考える。比企さんにとってのスウは、わたしにとっての野乃みたいなものなのかもしれないって。

決定的に違うのは、その子が現実にしたことがあるかどうか、かな。おそらくスウは一度も存在していなかったけど、野乃は奈菜ちゃんのおなかの中でたしかに存在していた。わたしが「かわいそう」で、比企さんが「きも！」になるのは、そういう違いがあるからかもしれない。

だけど、おなかの中って「現実」なんだろうか。わたしにとっては「現実」だけど、そうは思わない人もいるかもしれない。だって実際には見えないもんね。

同じように、比企さんの「現実」は、わたしたちと少し違うというだけなんじゃないかな。

比企さんを見ると、わたしはちょっとだけさみしくなる。わたしには見えないものを、あの子がとても大切にしているから。

家に帰ると、奈菜ちゃんと正夫くんが真剣な顔をして、食卓のいすに座っていた。こんな時間に、なぜ正夫くんが家に？　仕事はどうしたんだろう。正夫くんは、[★]全体の仕事をしている。今日は休みの日じゃなかった気がするけど。

それに、⁽⁵⁾ テーブルにはなぜかおそばが。

奈菜ちゃんが食べていたところみたい。でも変だ。奈菜ちゃんは、おそばではなく、おうどん派のはずだから。奈菜ちゃんがおそばを食べているところを、これまで一度も見ることがない。わたしと正夫くんがおそばを食べるとき、奈菜ちゃんは必ず別のものを食べている。つまりおそばが嫌いなのだ。

「おかえり、寧音」

と正夫くんはいった。

「大事なお話があります」

130

125

120

115

110

105

100

と奈菜ちゃんもいった。

「なんだろう。とにかく、おそばが不気味だった。いつもはそこにはいはずのもの。「おそば」という名前までもが、不気味に思えてくる。おそばなんていわずに、遠くにいてくれて感じ。」

奈菜ちゃんは、そんなわたしのおそばへの気持ちを見抜いたみたいで、「ああ、これ？ なんだか急に食べたくなっちゃって！ びっくりよね」なんて、のんきにいつている。

テーブルの席は、わたしと奈菜ちゃんとなり同士で、正夫くんは奈菜ちゃんに向かい側だ。正夫くんとなりが、野乃の席。

それなのに、その日、野乃の席には奈菜ちゃんが座っていた。奈菜ちゃんはいった。

「実はね、寧音はおねえちゃんになるの」

「えっ」

「びっくりした？」

「……びっくりした」

びっくりはしたけど、ああでも、そういうことかあとと思った。奈菜ちゃんにあかちゃんができたのだ。

「でも、今までだって、ずっとおねえちゃんだったよ。野乃の」

わたしがそういうと、奈菜ちゃんと正夫くんは、わたしのことを見てほほ笑んだ。

「そうね、そうだね。じゃあこれからは、ふたりのおねえちゃんになるの」

「いつ、生まれるの？」

「来年の三月ごろかな」

「まだまだ先なんだね」

「そうか、それでおそばが？」

妊娠すると食事の好みが変わるって、誰かがいつていた気がする。

「今、奈菜ちゃんのおなかを触ったら、あかちゃんがいるって、もうわかる？」

奈菜ちゃんと正夫くんは、声をあげて笑った。

「まだまだ」

「おなかもぺったんこ」

わたしはだんだん **C** してきた。新しい家族ができる！ 新しい家族！

160

155

150

145

140

135

奈菜ちゃんと正夫くんも、今までに見たことがないくらい、とっても幸せそうな顔をしている。

今度は本当に、「おねえちゃん」って呼ばれるんだね。

今度は本当に。

今度は本当に？

⁽⁶⁾ そう思った瞬間、胸の中がチクリとした気がした。

(戸森しるこ『ココロノナカノノ』)

★奈菜ちゃん……寧音の母。

★正夫くん……寧音の父。

★整体……骨格のゆがみを整える民間療法。

問一

——(1)「プライドが傷つく」っていうんだぞって、教えてくれた。寧音は「誇り高い」んだなって。」とありますが、「プライド」や「誇り」などに関する慣用句について、それぞれ()の意味に合わせた次の空らんに入る語を、1は漢字一字またはひらがな二字で、2、3は漢字一字で、4は漢字二字で、5はひらがな二字で書き、慣用句を完成させなさい。

1 で 風 を 切る (得意そうにふるまう)

2 を 張 る (誇りに思う)

3 高 高 (たいそう得意げな様子)

4 得意 (誇らしそうな様子)

5 で 使 う (いばった態度で人に仕事をさせる)

問二

——(2)「この話を誰にもしなくなった。」とありますが、(一)「この話」とはどんな話ですか。四十字以内で説明しなさい。

(二)「誰にもしなくなった」のはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問三

——(3)「声がものすごくちゅちゅとありまして、」かすかで弱々しい声」のことを意味する慣用句を書きなさい。

問四

——(4)「わたしはときどき考える。比企さんにとつてのスウは、わたしにとつての野乃みたいなものなのかもしれないって。」とありますが、「わたし」はどういうことを考えているのですか。三行以内で説明しなさい。

問五

——(5)「テーブルにはなぜかおそばが。」とありますが、このときの「寧音」の「おそば」に対する感じ方はどう変わったか。最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母がいつもは嫌いなおそばを食べていたので不気味に思ったが、妊娠して食事の好みが変わったのだろうと推測した。

イ 母はいつもおうどんを食べるので不気味に思ったが、テーブルの配置も含めて急に気が変わったのだろうと推測した。

ウ 母は父と一緒にいる時におそばを食べないので不気味に思ったが、寧音の気持ちを確かめているのだろうと推測した。

エ 母がおそばを食べる姿は不気味に思ったが、それは「おねえちゃん」になる寧音を配慮してのことだろうと推測した。

問六

——(6)「そう思った瞬間、胸の中がチクリとした気がした。」とありますが、このときの「寧音」の心情を二行以内で説明しなさい。文末は「…心情。」としなくてよい。

問七

□ A □ C に入れる語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア さざざら イ ねばねば ウ しくしく エ いらいら
オ ぞろぞろ カ じめじめ キ ばらばら ク うきうき

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母と父は、出産時に亡くした野乃に対する追悼の思いから、いつまでもテーブルの席に野乃の場所を作って寧音の悲しい気持ちを慰めてくれている。

イ 寧音は、自分の経験をクラスの女の子たちに話したとき、「かわいそう」と言われて落胆し、それ以後、自分の経験を話すのはやめようと決めている。

ウ 母の妊娠を知った時、寧音は大変驚き、喜んだが、一方で今も大切に思っている野乃の存在を母はすっかり忘れてしまったのかと寂しく思っている。

エ 寧音は、空想の友だちがいるという比企さんがいじめられるのは理不尽であると思っており、まりもや榎山の比企さんへの態度に不満を抱いている。

